

Hi! from SAGA

Winter 2022 vol 10

By
SUISA ニュースレターチーム
& 佐賀大学国際交流推進センター



カルチュラルナイト

年末の12月、佐賀大学はグローバルサポーターズと連携して「カルチュラルナイト」という国際的なイベントを開催しました

留学生にインタビュー

佐賀に戻りたい人、初めて佐賀に来ようと思っている人、過去に交換留学生として佐賀大学で学び、今年度、大学院正規性として戻ってきた留学生にインタビューしました



佐賀大学国際交流推進センター

+81-952-28-8169

ryugaku@mail.admin.saga-u.ac.jp

<https://www.irdc.saga-u.ac.jp>



CULTURAL NIGHT

年末の12月、佐賀大学はグローバルサポーターズと連携して「カルチュラルナイト」という国際的なイベントを開催しました。世界各国の文化やパフォーマンスを楽しむことができる、一年で最も大きなイベントの一つです。まさに文化交流の一夜です。2020年、新型コロナウイルスの深刻化により、このイベントは中止となりました。そのため、私はこのイベントに参加するのが初めてなので、とても楽しみにしていました。今年は、コロナウイルスの規定に沿って開催されました。イベントは、それぞれの国の展示コーナー、パフォーマンス、ファッションショーの3つのセクションに分かれて行われました。



ステージだけでなく、周囲の各国ブースも興味深いものがありました。会場の扉を開けて最初に目に入るのが、グローバルサポーターズによる書道ブースでした。日本語を勉強している人ならわかると思いますが、漢字を書くとき絵を描いているような感じになりますよね。絵の意味が描く人によって違うように、漢字も書く人によって違うのです。カルチュラルナイトでは、そんな書道の面白さを体験することができました。



漢字を書くだけでは物足りないという方は、タイ語などの他の言語で文字を書いてみてはいかがでしょうか。書道ブースの隣には、タイの学生がタイ語で自分の名前の書き方を一文字ずつ教えてくれるブースがありました。色とりどりの紙が用意されているだけでなく、書き終わったらタイの伝統的なお守りのプレスレットをプレゼントしてくれました。



タイ語のブースの隣では、テーブルの上に骨を落とす音が聞こえました。これはモンゴル占いのブースです。シャガイと呼ばれる占いゲームです。羊やヤギの足首にある4本の骨で占うゲームです。それぞれの骨は動物を表しています。ラクダ、馬、ヤギ、ヒツジ。馬や羊が出れば幸運、ラクダやヤギは不運を表しています。



面白いシャガイに参加していると、インドネシアのブースから美しい音色が聞こえてきました。アングルンという楽器です。一人で一つの音を奏でる面白い楽器です。この楽器は竹でできています。竹の音ってなんだか落ち着くんですよね。楽器だけでなく、インドネシアの学生たちが紙で切り抜いた伝統的なお面も用意して、ブースに飾ってくれました。



スリランカの学生のブースを覗いてみました。シギリヤの要塞やウナワツナ・ビーチなど、スリランカの有名な観光スポットの写真が素敵でした。またスリランカの有名なお茶やお菓子についてプレゼンテーションしていました。



私のように美味しいものを食べる旅が好き人は、スリランカのブースだけでなく、ミャンマーの学生のブースを覗いてみてはいかがでしょうか？ミャンマーといえば、タナカをご存知でしょうか？香木の樹皮から作られるクリーム状のペーストで、化粧品として顔に塗るのが一般的です。肌をなめらかにするとも言われています。このブースでは、ミャンマー人留学生が塗り方を実演してくれているので、見たことがある人はぜひ体験してみてください。



各国のブースを回ったことで、人との交流が少なく寂しい思いをしている自分に活気が戻り、今まで会ったことのない新しい学生と

も出会うことができました。この活気を読者の皆さんと共有できたらと思います。また、さらなる幸せを見つけ、皆さんと分かち合いたいと思います。国別ブース紹介の後は、いよいよパフォーマンスコーナーです。まずは、中国からのパフォーマンスです。中国の伝統的な音楽から始まり、とてもリラックスした雰囲気の中、ショーが行われました。一方、中国の美少女たちは、伝統的な踊りをサラリと披露。このショーは、中国の文化と美しさを、さまざまな時代を通して紹介することを目的としていました。音楽と伝統的な衣装の組み合わせは、観客に本物の中国を感じさせるものでした。



2つ目の演目は、ホスト国である「日本」の剣道でした。剣道は、竹刀と防具を使った日本の現代武道です。この演目は、上着に「けいこ着」、スカートのようなパンツに「はかま」を着用した日本人学生2名によって演じられました。もうひとつは、佐賀大学よさこい同好会「RANBU」による「よさこい踊り」です。よさこいとは、日本の伝統的な踊りです。このパフォーマンスには多くの日本人学生が参加し、素晴らしいものでした。私はこの演舞から、日本の勇気、団結力、伝統を感じました。



さらに、カンボジアからの公演もありました。その名も「ロイヤル・バレエ」、別名「カンボジア古典舞踊」。かつて、このような踊りは、国や王のために、平和の神に祈るために演じられました。このカンボジア人アーティストは、ただ踊るだけではなく、観客も一緒に踊れるようにと踊り方を教えてくれました。全体的に平和的でありながら、

実に難しいパフォーマンスでした。しかし、私たちは皆、一緒に素晴らしい時間を過ごすことができました。



次に、バングラデシュからの演奏がありました。バングラデシュの学生は他の国と違い、ギターでバングラデシュの歌を紹介します。言葉の壁があり、異国の地で歌を披露することは難しいと思っていました。しかし、グローバルサポーターズの方々のサポートもあり、歌詞をローマ字表記したプロジェクターを用意していただき、一緒に歌うことができました。



続いて、ミャンマーのパフォーマンスです。彼らのメインパフォーマンスは、ミャンマーの伝統的な踊りを、伝統と現代が混ざり合ったメロディーで表現したものでした。曲のタイトルは「Mingalarbar (ミンガラーバー)」、意味は「あなたが祝福されますように」です。ミャンマーでは「ミンガラーバー」は、手のひらを合わせて軽くお辞儀をするムドラのジェスチャーを伴う典型的な挨拶です。演奏中、プロジェクターからミャンマーの美しい風景を眺める機会もありました。



その後、ベトナムの公演に参加しました。「コロナウイルスに感染しないための安全な過ごし方、気をつけるべきこと」をテーマにしたダ

ンスパフォーマンスでした。出演者はベトナムの女の子で、ベトナムの国旗が描かれたシャツを着ていました。私たち観客は、パフォーマンスを楽しむだけでなく、コロナウイルスについて意識するようになりました。このパフォーマンスによって、私たちは安全にイベントを楽しむことを再認識したのです。



最後になり、エネルギッシュな音楽が聞こえてくると同時に、観客が道を切り開いていました。今こそインドネシアの出番です!!!!

「おお!!!」と群衆全体が機能を停止し、皆が驚きを感じているのが確かに感じられました。

美しい衣装を身にまとった男性が、ステージエリアまでの道すがら、動きはダイナミックで力強く踊りながら入場してきた。驚いたのは、ジャワの王子のような化粧でした(ジャワとは、インドネシアのジャワ島に住む民族)。また、足首に鈴をつけ、舞台を踏みしめるたびに音が鳴る仕組みになっていました。約5分間のパフォーマンスだったが、観客はその魅力的なダンスに釘付けになりました。



その後、インドネシアの学生からダンスについての説明がありました。この踊りは「レモダンス」といって、王子の戦いの様子を表現したものです。現在、インドネシアでは特別な日の歓迎ダンスとして踊られているそうです。

パフォーマンスコーナーの途中に、「ファッションショー」のコーナーがありました。このコーナーには、中国、ミャンマー、ネパール、モンゴル、チュニジア、セネガル、スリランカ、ジンバブエなど、さまざまな国からの留学生が母国の伝統衣装を身にまとい参加していました。



カルチャーナイトギャラリー：



大学院正規生として佐賀大学に戻ってきた 留学生にインタビュー

皆さん、こんにちは。SPACEの交換留学生が佐賀に来て学び、佐賀大学のサポートにより、大学院正規生として佐賀大学に戻ってきたのができたのは、とても興味深い事実です。SUISA ニュースレターチームの中の2人も交換留学生を経て大学院正規生として在籍しています。なぜ戻ったのか？どのようにして戻ったのか？よく質問されます。そこで、このコラムでは、佐賀に戻ってきた元交換留学生の一人、スリランカ出身のスナリ・シャニカさんにインタビューしてみました。

• 初めて佐賀に来たのはいつですか？

2018年9月25日に初めて佐賀に来ました。その日は私の人生のターニングポイントの一つだったので、今でも覚えています。スリランカにいる家族と離れるのはとても辛かったですが、ここに来た時、これは自分の人生を次のステージに進めると思いました。



• ここに来る前に、佐賀のことは知っていましたか？

正直なところ、SPACEプログラムに応募するまで佐賀県のことには知りませんでした。母校（スリランカのペラデニヤ大学）の学部2年の時に、教務課から佐賀大学のSPACEプログラムのことを知らされました。そのとき私は、これは世界を冒険する素晴らしい機会になると思いました。そして、佐賀大学や佐賀市について調べました。そしてついに、検索で得た興味から、このチャンスに応募することにしました。幸運にも、多くの応募者の中から交換留学生としてのポジションを確保することができました。

• 来日当初、カルチャーショックはありましたか？

他の国で新しい生活を始めることは、新しく来た人のほとんどにとってはすでに困難なことだと思います。しかし、私は南アジアの国から来たので、当時、あまりカルチャーショックはありませんでした。時間が経つにつれ、私はSPACEプログラムで日本語を学び、その間に日本人の方々とたくさんの交流をしました。当時は新型コロナウイルス感染症のような社会的な障壁がなかったため、私たちはさまざまな楽しい活動や多くのイベントに参加しました。さらに、私の指導教官、チューター、他の研究室のメンバーや友人たちが、新しい環境に早く慣れるように手助けしてくれました。

• SPACE-Eの頃から日本に戻りたいと考えていたのですか？

毎日与えられた研究室の仕事をこなしているうちに、同じ研究室で同じ指導者のもとで研究を続けたいと思うようになりました。この研究室には、研究や調査を行うための設備がたくさんあります。それだけでなく、研究室のメンバーと一緒にやった楽しい活動が、修士課程の学生として再びここに戻ってきたいという気持ちをさらに高めてくれました。1年間の交換留学を無事に終え、私は2019年に学士号を取得するためにスリランカに戻らなければならませんでした。その時、私は日本語が流暢で、佐賀大学や友人と別れるのはとても辛かったです。

● **修士課程の学生として再び来日するために、どのような手続きをとり
ましたか？**

スリランカに帰国後、1年半で学士課程を修了しました。2021年3月にスリランカのペラデニヤ大学農業技術・経営学部の学士課程を一等賞で卒業しました。その後、佐賀大学の指導教官と相談し、佐賀大学の修士課程を受験することにしました。文部科学省の奨学金に応募したところ、これまた幸運にも奨学金を手に入れることができました。新型コロナウイルスのパンデミックにより多くの障壁がある中、2021年12月に大学院生として再び佐賀にやってきました。

● **初めての留学と修士課程の今では、どのような違いがありましたか？**

実は、友人に佐賀でに再会できたことが嬉しかったんです。しかし、残念ながら、世界中と同じように新型コロナウイルスの大流行により、多くのことが変化してしまいました。社会的な活動やイベント、楽しい活動に参加するためには、多くの障壁があります。時間が経てば、すべてがうまくいくと思います。しかし、私の場合、大学院生になり、以前よりはるかに多くの責任を負うようになりました。私は、ここにある資源を活用し、努力することで、自分の研究分野で素晴らしい仕事をしたいと思っています。

● **元交換留学生の方で、もう一度ここに戻ってきたいと考えている方に
何かご提案があればお願いします。**

最後に、佐賀に戻りたい人、初めて佐賀に来ようと思っている人、この機会を逃さないように、躊躇しないでください。この機会を逃すと、将来困ることになります。研究者やその他の職業に就きたい人は、佐賀大学の空の下で働きながら、日本の格調高い文化に触れることで、成功することができます。ぜひ、佐賀の美しさを見て、自分の目標を達成するために人生を楽しんでください。

編集

ブラーパー ピームマパット、工学系研究科博士課程2年

ミヤツト トユースン、先進健康科学専攻修士2年

國弘 貴之、教育学部 小中連携教育 中等主免教育 英語専攻4年

ジェフリ テウリ アーディアンサ、理工学研究科博士課程1年

